

2012年

4月26日(木)〜6月19日(火)

会場・特別展示館

開館時間・午前10時〜午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日・水曜日 無料観覧日・5月5日(土・祝)

観覧料・一般420(350)円、高校・大学生250(200)円、

小・中学生110(90)円*(*)は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でこ

利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳

以上の方の割引料金(要証明書等)*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

主催・国立民族学博物館 特別協力・工学院大学図書館 協賛・財団法人千里文化財財

後援・社団法人日本建築学会 社団法人日本建築家協会 社団法人全日本建築士会、

日本生活学会、日本民俗建築学会 協力・青森県立美術館、パソナ・沙留ミーダム、

株式会社青森スタジオ、株式会社商華堂、日本万国博覧会記念機構



国立民族学博物館



人のくらしの
一切しらべ



“Modernology”

今こんわじろう和次郎

〔特別展〕

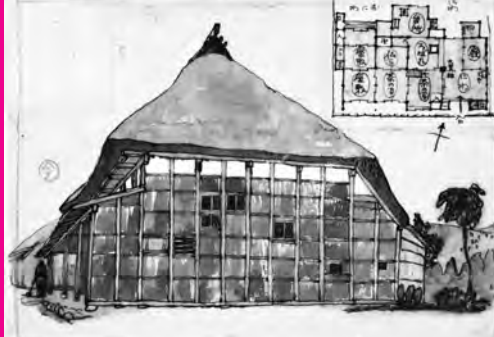
採集講義

…考現学の今

Science of the Present

街中の今和次郎

今和次郎「吉田謙吉「銀座のカフェ」服装採集」1926年 工学院大学図書館所蔵



①「渡辺甚吉邸の椅子」1934年頃 早稲田大学 ②「配列された植木鉢(東京府西多摩郡日原)」1922年 理工学術院創造理工学部所蔵 ③「新時代の生活方向 家庭の各員の生活マデノ線を防備しませう」②主人 1940年 ④「雪に埋もれる山の村の家(新潟県中頸城郡関川)」1917年

青森県弘前市に生まれた今和次郎(1888-1973)は、昭和初期の急速に大都市化していく東京の街の様子や人々の生活の変化を採集(観察し、記録する)・分析した「考現学」の創始者として知られています。また、民俗学者の柳田國男らがつくった民家研究会「白茅会」の活動に参加したことをきっかけにはじめた民家研究の分野でも重要な足跡を残しました。

一方、関東大震災直後の街頭に出て、急ごしらえのバラック建築をペンキで装飾した「バラック装飾社」の活動や積雪地方の暮らしを快適にするための試み、村の共同作業場の設計などに携わった建築家・デザイナーでもありました。さらに戦後になると、日常生活を考察する「生活学」や「服装研究」といった新しい学問領域も開拓していきます。こうした幅広い領域にわたる活動の根底には、都市と地方を行き交いながらさまざまな暮らしの営みを「ひろい心でよくみる」ことをとおして、これらの暮らしのかたちを、今を生きる人々とともに創造しようと模索し続けた今和次郎の生き方がありました。

「今和次郎 採集講義」展は、工学院大学図書館の今和次郎コレクションに所蔵される膨大かつ多彩な資料を中心に、スケッチ、写真、建築・デザイン図面等をおして今和次郎のユニークな活動を紹介する初の本格的な回顧展です。青森県立美術館、パナソニック汐留ミュージアムで開催されたこの展示の資料に加えて、みんぱくの考現学的な調査記録と資料を展示するのが、特別展「今和次郎 採集講義―考現学の今」です。

俗風 INDEX 記録

男

⑤ バラック装飾社
米国メーン商会(看板)
1923年

26
27

25

15

28

20
21

38
34
40

45

INDEX

索引

⑥ バラック装飾社
カフェ・エリン(内観) 1923年

女

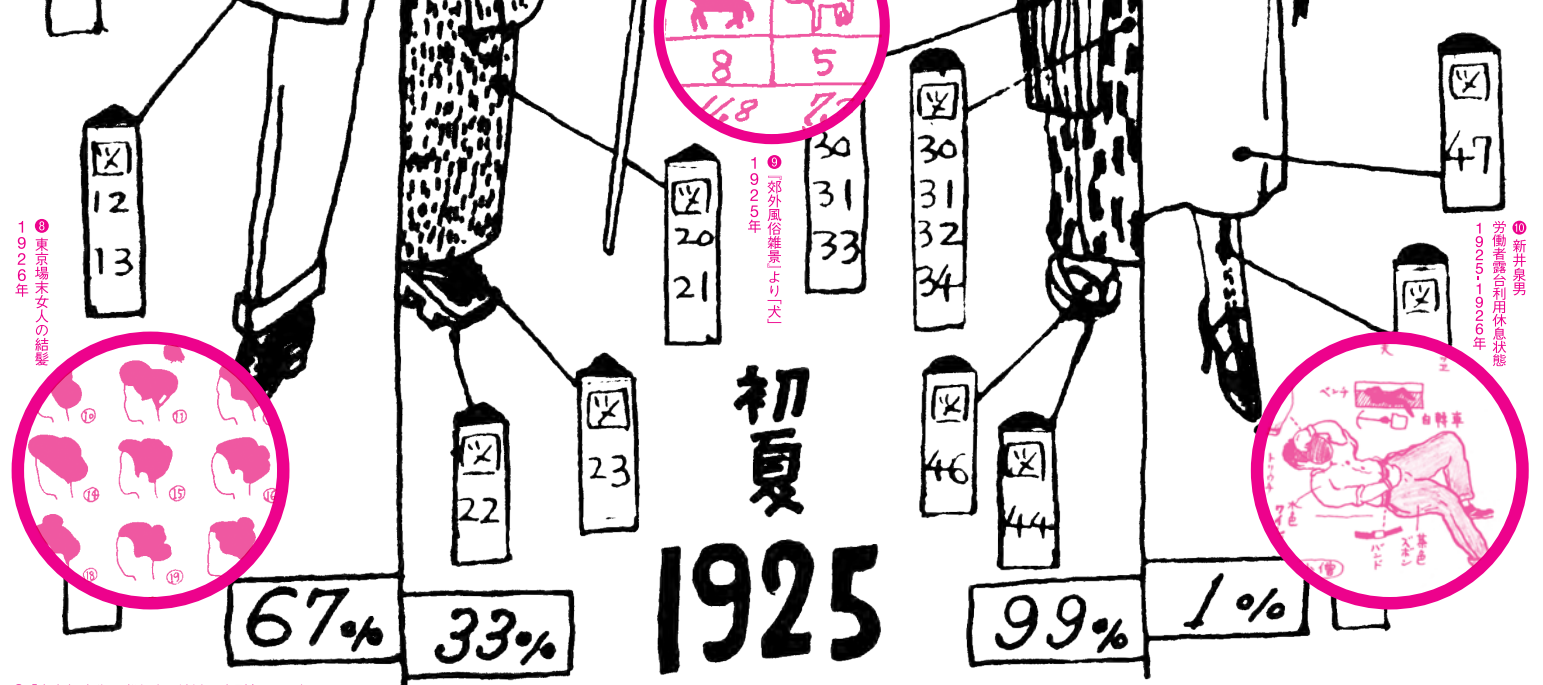
49

55

52
53
54

48

38



④ 東京海女女人の結髪
1926年

⑨ 「郊外風俗雑煮より天」
1926年

⑩ 新井泉男
労働者組合利用休息状態
1925, 1926年

① 「東京銀座街風俗記録 統計図索引」1925年
立体模型【制作：NECT design (CHONO), 2011年】

●「関連イベント」

- みんなくゼミナール
「今和次郎 採集講義と日常生活文化研究の現在」
講師：萩原正三、黒石いずみ、横川公子、佐藤浩司
5月19日(土) 13時30分～15時
- 「生活財の考現学」
高度経済成長長期の家庭景観」
講師：栗田靖之、疋田正博
6月16日(土) 13時30分～15時
- みんなく映画会
「記録映画 昭和の家事」
解説：小泉和子 司会：佐藤浩司
6月3日(日) 13時30分～16時
- ワークショップ
「みんなくで考現学的パワースポットを探そう」
講師：久保正敏
5月6日(日) 10時30分～12時
- 「みんなくを飛び出してモノ調べ・風景調べ」(要申込)
講師：岡本信也、岡本靖子 司会：久保正敏
1回目：5月27日(日) 10時30分～12時
2回目：6月9日(土) 11時～14時30分
- シンポジウム
「今和次郎が調査した民家の今」
瀝青会による「日本の民家」再訪プロジェクト
講師：中谷礼仁、石川初、御船達雄、菊地暁
コメンテーター：黒石いずみ、杉本尚次
6月9日(土) 15時～16時30分
- みんなくウィークエンド・サロナー研究者と話そう
4月29日(日) 飯田卓 5月6日(日) 近藤雅樹
5月13日(日) 岩城晴貞、朝倉敏夫
5月20日(日) 佐藤浩司
5月27日(日) 横川公子、久保正敏
6月3日(日) 久保正敏 6月10日(日) 杉本尚次
6月17日(日) 高橋晴子、久保正敏
※6月3日(日)は11時～12時
そのほかは14時30分～15時30分
- ギャラリートーク
※詳細はホームページをご覧ください



②～⑫ 工学院大学図書館所蔵

⑬ 新井泉男 帝大セツルメント児童服装調査 女子 1926年

「特別展」
今和次郎
採集講義
考現学の今
Science for the Present

「今和次郎とみんなく」
今和次郎が長野県諏訪郡で
収集した資料(みんなく所蔵と
収集時のスケッチ(工学院大学図書館所蔵)

〔砥石入〕

〔笠〕

今和次郎の残したスケッチやノートなどは、庶民生活への暖かい眼差しが窺える解説や数量化を含んだスケッチなど、魅力的な図的表現に特徴があります。考現学の手法と対象は民族学とよく似ており、みんぱく初代館長の梅棹忠夫も、考現学的調査に触発されてモンゴルなど海外調査の記録を数多く残しています。その後のみんぱくの研究者にも考現学の遺伝子は引き継がれ、モノ調査とインタビュー調査を組み合わせた文化研究、映像による記録、データベースによる分析など新しい調査手法を取り入れ、さまざまな研究成果をあげてきました。この研究成果を示す展示では、モンゴルのゲルの家財に関する梅棹忠夫と最新の調査との比較、京都の町家暮らしの家財道具一式である大村しげコレクション調査の一端、考現学創始当時の洋装、そしてみんぱく開館当時に行われた民家模型製作のための民家調査資料など、みんぱくで進められてきた様々な資料や研究を紹介します。

本展示をとおして、ライフスタイルやモノと生活の関係が急速に変化する現在、そして些細な日常のいとおしさに気づいた今、モノに着目して身近な風俗の一切を丸ごと記録することの迫力とその意味を、あらためて考えます。

岡本信也+岡本靖子作
**銭湯で見た
下着**



昭和初期のエレベーター係の制服
(右)三越百貨店、(左)大丸百貨店
**田中千代
コレクションから**



**考現学と
みんぱく**

**世界の“今”の
一切しらべ**
明日のくらしのために



和崎洋一スケッチ
1944年のゲル



**大村しげ
の暮らした
オカマ**

モンゴルのゲル

**日本民族博物館
鳥瞰図**



国立民族学博物館

〒5658511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話: 06-68762151(代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

- 大阪・万博記念公園内
- 大阪モノレールで万博記念公園駅・公園東口駅下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅、JR茨木駅 北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分、茨木方面から「自然文化園・日本庭園中央」経由のバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。
- 自家用車の場合は、万博記念公園の日本庭園前駐車場(有料)から徒歩約5分
- タクシーは、万博記念公園の日本庭園前駐車場まで乗り入れます。日本庭園前駐車場を利用される方は、日本庭園前ゲート横にある国立民族学博物館専用通行口をお通しください。
- 自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料(大人250円、小・中学生70円)が必要ですが、大阪モノレール公園東口駅からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

今和次郎作画
1936年頃
工学院大学図書館所蔵

